

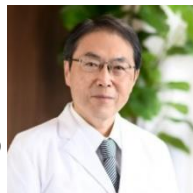
第26回 MQI活動

2021年度MQI統一主題

おさめる
基本を遵守した医療 - 治める・斂める・理める・修める・納める -

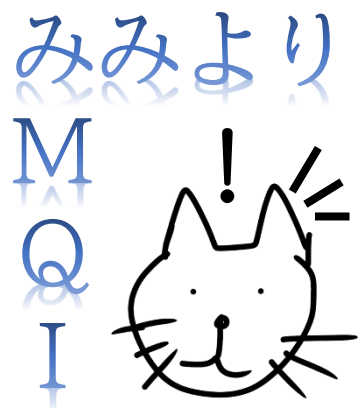
2021年度 各チームの進捗について
推進委員長 柳川達生

各チームとも目標をたて、その目標が手の届くところにはきました。進捗がうまくいかない原因はいくつか挙げられます。まず現状把握で、患者の真の要求が何かをとらえにくい場合があります。特に潜在要求をさぐる場合にはデータをどのように集めたらいいか、集まったデータをどう解析したらいいかしばしば困難です。また、対策立案の段階では各部署の職員が集まり調整が必要となります。対策実施では周知が不十分であると新しい対策が実行されません。時として院内だけでなく地域の医療機関等への周知も必要となります。周知されても運用に無理があると進捗しません。現場との協議が重要です。



各チームとも難関を少しずつは乗り越えてはきていますが、あとひと踏ん張りです。課題をしっかりと把握し、来年度以降に残る活動にしてください。業務として定着させるように歯止め標準化をお願いします。時間的制約もありますが最後のひと踏ん張りを期待しています。

- ・ポリファーマシー … 多剤併用の患者さんの減薬の必要があっても医師だけの力では困難なことがあります。薬剤師、看護師、担当医と連携して、患者さんへ減薬を勧める効率的な協力体制を築くことができるようお願いします。
- ・患者サポートの体制 … 患者さんの抱えている問題を多職種で専門的に解決することが目的です。患者の潜在的な要求のデータの取り方、解析に苦労していました。できる限りの助言はしましたが、皆にもわかっていただけるようにまとめてください。
- ・造影剤検査の推奨値 … eGFRを基準とした院内の基準と対処法を策定しました。院内でしっかり運用してください。地域のクリニックへの周知もお願いします。また今後はガイドラインの変更時は速やかに改訂を検討ください。
- ・心血管リハビリ … 心不全パスが遵守できなかった問題を解決し、今回は心筋梗塞プロトコルを策定しました。今回は現場とよく相談して実行できるパスとしてください。実際に運用するためには現場との話し合いが重要です。



発行(公財)練馬総合病院MQI推進委員会
 〒176-8530 練馬区旭丘1-24-1
 TEL.03-5988-2200(代)

● 各チーム進捗状況
 ● プロジェクト紹介
 ● チーム別相談会
 (特別付録) みみより創刊号

本年度大会は、「糖尿病センタープロジェクト」の参加も決定いたしました。

テーマ・プロジェクト名・代表者	チームリーダーからひとこと
外来における糖尿病治療・療養指導成績の向上を目指す 糖尿病センタープロジェクト 山崎勝巳	糖尿病センターでは、日本医療機能評価機構「医療の質向上のための体制整備事業」に参加しています。本事業には複数の病院が参加し、外来糖尿病患者に対する腎症管理率や、65歳未満の外来糖尿病患者のHbA1c7.0%未満の割合など、共通の「医療の質指標」を用いて現状の外来における業務の評価と改善に取り組んでいます。本事業に参加し、外来における糖尿病治療・療養指導の質向上を目指して活動しています。

2021年 チーム別相談会 ①②

6月と8月に、各チームの代表を招きチーム別相談会を開催しました。

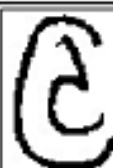
活動報告とテーマ・進捗に関する悩みなど困ったことについて質問が寄せられ、それに対し推進委員より忌憚のない意見が述べられました。

テーマ・チーム名/ 主体部署・リーダー・サブ	チームリーダーから ひとこと	委員会からコメント
<p>心大血管リハビリテーションの運用を見直す</p> <p>vsパピロおじさん</p> <p>リハビリテーション科 小吹伸也・青山駿</p>	<p>改訂された心不全パスや心筋梗塞プロトコルの運用を開始しよりよいリハビリテーションを提供できるようチーム一丸となって取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>チーム別相談会では自分達では気づけなかった問題点やアドバイスを頂けたので今後の活動に活かしていきたいと思えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パス使用時は安静度がパス優先になることを医師へ説明し了解を得る。また歯止めが重要。 ・効果確認は二重に出ている指示が少なくなった、心不全リハビリパスを運用し、看護師のワークシートにパスの安静度が反映するようになったか、金曜日の申し送りができたか、安静度が守れているか、パスの通り何件できたか、などデータで表すことがあげられる。
<p>「患者相談」を確立する</p> <p>窓の外は碧空</p> <p>看護部 吉岡千春・宮地幸子</p>	<p>「患者相談」の役割として、患者やその家族が不安に思うこと、診療や自宅療養に関して悩み、誰かに相談したいと思うときに相談する場所でありたい。そして、「患者相談対応の流れ」組織図に列挙する各職種・各部署と共に、その不安や悩みの解決の手助けができれば、と考えた。しかし、文章に翻弄され幾度も内容がブレるばかりでテーマ選定の呪縛から解き放たれる日がくるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状把握では医事課では10日間で638件相談を受け、100件近く外来看護師へ回している。医事課や外来看護師ではなく患者相談では対応できないのか、その内容の分析が必要。 ・患者からの相談内容は潜在的には介護や生活相談があることを想定していたが、現状ではゼロ。それを特性要因図で分析しているが、その要因から対策は十分でしょうか。患者さんの手助けになる対策をお願いします。
<p>造影検査の推奨基準を見直し、基準値を越えた際の対応を標準化する</p> <p>ラジエーションハウス</p> <p>放射線科 岩淵真耶・安上尚吾</p>	<p>8月2日より造影検査の基準値をeGFR値へ移行し、大きな混乱なく運用できていると感じています。改訂にあたり関連部署の多くの方にご協力いただきました、本当にありがとうございます。今後はフロー図の作成や、基準値を将来的に管理していく仕組みを整えていきたいと思えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・eGFR変更にて医師への周知は常勤医師のみならず非常勤職員にも徹底した方が良い。 ・他病院は変わっていたが当院が変わっていなかった要因をわかりやすく記載する。 ・ガイドラインの変更時は診療技術部長に相談する。活動の歯止めが重要。 ・効果確認は腎機能低下数、医師が指示を出せるか、処置の数。
<p>外来ポリファーマシー対策の推進</p> <p>ポリファーマシー</p> <p>薬剤科 大矢沙也可・伊藤鹿島</p>	<p>今まで入院患者に対しポリファーマシー対策を行ってきましたが、今回のMQIを通して外来患者のポリファーマシー対策も積極的に取り組んでいます。患者さんに、より安全な薬物療法を提供できるよう関連職種の方々と連携し、活動していきます。引き続きご協力よろしくお願ひします。</p> <p>チーム別相談会で出たご意見についてチーム内で再度検討し、今後の活動に活かしていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算定は何人取れているか、何人取れていないか明確にすると問題点がわかりやすい。 ・業務フロー図を作成するだけでなく運用面も記載したほうがよい ・業務フロー図で診察室へ薬剤師同行することを患者が承諾すればOK 現状の問題点－目標－対策を対応させるようにするとわかりやすい

24年前に発行したみみより創刊号が発掘されました。とりまく状況は当時とは大きく変わりましたが、MQIの本質は今もなお受け継がれています。ぜひご覧ください。

みみよりMQI 第1号

発行日 平成9年4月22日



みみよりMQI



創刊

発行/〈財〉練馬総合病院 医療の質向上推進委員会 広報部会 〒176 練馬区旭丘2-41-1 Tel. 03-3972-1001(代) XLN04420(Nifty)

M
院

Q Iに2年目のジंकスはるか

長 飯田 修平

何ごとも、予測のつかないことは不安であり、不満である。人が変化を嫌う理由の一つであろう。

1年目は無我夢中で熱病のようにやると言うこともある。弾みである。

昨年からお話ししているが、MQI活動2年目の本年は正念場である。2年目のジंकスがないことが、本物の証明となる。

読売巨人軍の仁志選手が言っていた。

「2年目のジंकスなんて思ったことも、考えたこともありません。」私も同じ考えである。他人に見せなくとも、自分の納得する練習や準備をしているから言える自信の現れである。

推進委員も、活動チームの一員も、職場の協力者も、「2年目大丈夫」と言えるだけのものを持ってほしい。

熱しやすく、冷めやすい（流行り廃りに流されやすい）のも人である。MQIは、瞬発力だけの短距離競走ではない。持続力だけではなく、スピードも要求される近代的長距離競走である。それなりのトレーニングが必要である。

◎広 報誌「みみよりMQI」について

M

Q I推進委員会 広報部会

広報誌「みみよりMQI」は、当院独自のMQI活動を支援し、医療の質向上推進委員会と活動チーム、そして、現場で働く職員をつなぐ架け橋として発行していきたいと考えております。この広報誌にはMQIの諸活動をなるべく分かりやすく、そして、広く職員に紹介していきたいと考えております。紙面には、委員会からの連絡事項、各チームの紹介、MQIに関するQ&A等を掲載していく予定です。配布は各チーム、各職場にし、地下の掲示板にも掲示いたします。

MQI活動は職員の皆さんの積極的な参加が是非必要です。この広報誌へも積極

「みみよりMQI」発行にあたって

M

Q I推進委員長 高原 哲也

MQI活動初年の平成8年は試行錯誤の繰り返しでしたが、本年は昨年の反省を力として円滑な活動を行います。その一つとして本年は推進委員会に「教育」と「広報」の部会を設置しました。この広報部会よりMQI活動誌の提案があり、このたび第一号発行の運びとなりました。なるべく難しい表現をさけ、職場に刺した生きた声を伝えていきたいと考えています。当院の経営方針遂行と各職場で一生涯懸命働いておられる職員のみなさんの間に立ち、働きやすい環境作りをおこなうことは必ず患者さんに還元されます。これを達成することが推進委員の役割です。標準化、システム化にいたるまでには努力が伴いますが、この目的達成のために推進委員15人が努力しています。自己満足だけでは推進委員だれ一人として努力する気持ちにはなりません。職員のみなさんが我々と同じ意志をもって前向きに活動して下さることが推進委員全員の願いです。この架け橋としてこの冊子が有効に利用されるよう努力します。

的に寄稿して下さるようお願いいたします。2階事務室のポストにMQIのコーナーを設けました。職場、チーム、個人を問わず様々な方のご意見やご質問をお待ちしております。この紙面を通して紹介させていただきまますので是非活用してください。

◎ 「みみよりMQI」名前の由来

人の五感のうち「みみ」から入る刺激はとて多いと思います。また、「みみより」というタイトルは覚えやすく、個性的で、親しみが持てます。「伝えたいことが右から左へ抜けてしまわないように」また、「みみよりの情報を提供したい」という思いを込めてこの名を付けました。